

日本災害看護学会 令和 6 年能登半島地震災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日：2024 年 7 月 28 日（日）

活動隊員：朝田和枝

1. 活動期間

2024 年 7 月 23 日（火）8 時 30 分 ~ 2024 年 7 月 25 日（木）16 時

2. 活動場所

避難所：日置公民館（石川県珠洲市折戸町チ部 34 番地）

仮設住宅：正院町第 1 団地（珠洲市立正院小中学校・石川県珠洲市正院町川尻 1 部 39 番地）

宝立町第 1 団地（珠洲市立宝立小中学校・石川県珠洲市宝立町鶏飼丑部 83）

3. 石川県珠洲市の被害状況（7 月 23 日 14:00 時点 石川県危機対策課）

人的被害 死者：114 人 うち災害関連死：17 人 負傷者：重傷 47 人、軽症 202 人

住家被害 建物全壊・半壊・一部損壊：6,665 棟 非住家被害：5,629 棟

市町一次避難所：開設 22 か所 避難者数 289 人

県避難所：1.5 次避難所 開設 1 か所、避難者数 24 人、

2 次避難所 開設 103 か所 避難者数 805 人

水道復旧 2024 年 5 月 31 日をもって断水解除（早期復旧困難地区 1076 戸除く）（6 月 28 日時点）

4. 避難所の状況

【避難者数】

大谷小中学校 7 月 23 日：25 人（登録者数） 日置公民館 7 月 23 日：2 人

5. 仮設住宅の状況

1) 正院町第一団地：（正院小学校グラウンド 76 戸）（7 月 23 日（火）24 日（水）25 日（木））

集会場の前に第一団地の配置図と掲示板が設置されていた。集会場の扉に貼り切れないほどのイベント案内がされていた。集会場前のプランタに植えられたグラジオラスは暑さのため一部葉が枯れていた。暑さの影響か日中団地の路地を歩く人は少なかった。住民からは、仮設住宅内クーラーは効いているが暑く、夜間目覚めることもあると話していた。

2) 宝立町第 1 団地：（宝立小中学校グラウンド 153 戸）（7 月 24 日 13 時 00 分）

晴天であり、外での立ち話や縁側に座り近所通して会話している姿が見られた。棟の入口には苗字が記載されていた。集会場の前には掲示板があり、お知らせが掲示されていた。

6. 支援活動の実際

【地域コミュニティ支援】

1) いっぶくせん会ね（お茶会）

開催場所：正院町第 1 団地集会所

開催日時：7 月 23 日（火）~25 日（木）10:00~12:00

参加者数：7 月 23 日（火）8 名+12 名、7 月 24 日（水）10 名+9 名、7 月 25 日（木）12 名+12 名

7 月 23 日（火）

本日より夏休み前半の 3 日間、ナツガクが始まった。ナツガクとは、公民館主催の夏の児童を対象とした無料の学習会のことで、地震が続いていることや両親が日中仕事でいない家庭から「子供を家に一人にするのが不安だ」という声や、学校の夏休み期間中に子どもが勉強を教えてもらう場所がないこと

から始まったと言われている。今年は朝 8 時 30 分から 10 時まで正院公民館館長をはじめとする地域住民の方々が見守る中、小中学生が集会場に集まり思い思いに持ち寄った夏休みの宿題に取り組んでいた。ナツガク 1 日目は、小学生 11 名 + 中学生 1 名が参加、学習後にはおやつタイムがあり、その後、「いっぽくせん会ね」に合流していた。最初、地域住民の方による絵本の読み聞かせ（1 冊）が行われた。正院小学校では震災前から月に一度地域の読書ボランティアによる絵本の読み聞かせが行われているとのことであった。児童たちに交じり、「いっぽくせん会ね」に参加の大人の方たちも一緒に絵本の読み聞かせを静かに真剣に聴いていた。その後、怪我をした時の止血の方法、三角巾のたたみ方、結び方や三角巾とストッキングを使った頭の手当など応急手当の方法について、講義と実技を行った。児童と大人、大人同士というように 2~3 人のグループで、三角巾のたたみ方、結び方は、難しそうではあったが、互いに教え合いながら楽しそうに行っていた。ただ、この日は猛暑であり、集会場内も暑く冷房 2 基を稼働させていたが、効果がなく汗をにじませながら行っていた。最後にお茶を飲んでもらいながら参加した高齢者の方の健康チェックを行った。参加者の中には収縮期血圧が 150~160mmHg と高い方が数名いたため、「お薬以外で血圧を下げる方法」の注意書きをお渡し健康指導を行った。

7月24日(水)

ナツガク 2 日目は、小学生 8 名 + 中学生 1 名が参加していた。10 時から、読書ボランティアによる絵本の読み聞かせ（4 冊）が行われた。読み聞かせの後には、児童も交えみんなで楽しく 100 歳体操が行われた。最後にお茶を飲みながら健康チェックを行ったが、この日血圧の高い方は居なかった。

7月25日(木)

ナツガク 3 日目（最終日）は、小学生 11 名 + 中学生 1 名が参加していた。最初、読書ボランティアによる絵本の読み聞かせ（2 冊）が行われた。毎回ボランティアの方は、心温まる様々な絵本を準備し朗読してくれ、聴き手もとても考えさせられる内容であった。その後、児童は白紙のうちわに思い思いに好きな絵を描く、切り絵を貼るなどのうちわ作りを行った。最後に一人一人出来上がったうちわを持ち記念撮影が行われた。大人においては、新聞紙を使ったスリッパ作り、ゴミ箱作りを行った。大人たちも真剣で、1 回習ったら、復習で 2 回、3 回と互いに教え合いながら新聞紙でスリッパやゴミ箱を作っていた。終了後、「楽しかった」「ボケ防止になる」と話しみんなの笑顔が見られた。

2) 宝立集いの会（お茶会）開催

開催場所：宝立町第 1 団地集会所

開催日時：7 月 24 日（水）13:00~15:00

参加者数：10 名（宝立公民館 主事含む）

この日は雨が降っていたが、9 名の女性の方の参加があった。応急手当のポスターで怪我をした時の止血について、応急手当について講義を行い、その後、三角巾を使ってたたみ三角巾、結び三角巾の実技を行ってもらった。最初たたみ三角巾や結び三角巾は三角巾の持ち方や結び方が上手くわからず苦労する方が多く見られた。しかし、隣同志互いに教え合いながらできるまでその場で練習し修得していた。できなくてもあきらめることなく取り組んでいる姿に指導する側も感銘を受けた。三角巾やストッキングを使った応急手当ができるようになると嬉しそうに笑顔が見られ、途中休憩をはさみながらもお茶会の最後まで応急手当を行った。

3) コミュニティカフェ「これからの正院町を考えよう」

開催場所：正院町第 1 団地集会所

開催日時：7月23日（火曜日）18:00～21:00（毎週火曜日開催）

参加者数：男性6名、女性2名

正院町では、復興について話したい方、正院町のこれからを考えたい方、いろいろ情報収集したい方など、参加は自由で毎週集まって話し合える場を設けている。この日も主に壮年期の方々が集まって、現在の困りごと、不満など、日頃の思いを自由に話していた。このような会を定期的に続けることで、互いの苦悩や思いが理解でき、誰かが聞いてくれることでストレス解消や、新たな知見も見えてきて困りごとの解決へと繋がっていくのではないかと共に参加していて感じた。

4) エリア会議出席

開催場所：珠洲ささえ愛センター（旧あいずみクリニック内）

開催日時：7月24日（水曜日）9:00～11:00（毎週水曜日開催）

毎週水曜日午前中珠洲ささえ愛センターでエリア会議が開催されている。珠洲市を3つのエリア（正院・蛸島地区、宝立・上戸・直・飯田地区、若山・三崎・大谷・日置地区）に分け、各エリアの支援団体、MSW、保健師が参加し、エリア毎に30分ずつ時間を区切り、個別課題、コミュニティ課題について、情報共有しながら検討していた。課題として挙げられていたのは、現在在宅で生活する要フォロー者を抽出しようとして取り組んでいるが、電話しても繋がらない、訪問しても不在であるということで、解決策として平日のみならず休日も効果的に活動しようとして取り組んでいた。また、個別の課題では、自宅の修繕をしたいが自宅両隣の公費解体が進んでいないため修繕が出来ないこと、障害者が障害者施設を利用したいが職員不足で施設の再開が出来ず利用できないこと、自宅が半壊や一部損壊の場合は、応急仮設住宅入居できず、避難所生活を続けざる終えない方や崩れ掛かった自宅で生活している方がいることなどが挙げられていた。また、交通状況も復旧が遅れており、病院受診が出来ないなどの課題も上がっていた。これらの課題に対し意見交換しながら解決に向け対策を検討していた。また、エリア内だけでは解決困難な場合は午後から行われるケース会議やヘッド会議へ課題を挙げ検討する取り組みが行われていた。

【応急仮設住宅個別訪問による支援】（7月25日木曜日 13時頃訪問）

認知症の妻と夫の高齢者世帯宅を訪問した。通常であれば7月中旬から末日まで、隣県の娘宅へ旅行に出かけている予定であったが、自宅に戻っているとの情報があり訪問した。旅行が途中で中止となったのは認知症の妻が珠洲市の自宅に帰りたいということで早期に戻ってきたとのことであった。夫婦は仮設住宅の家の中で過ごしていた。帰宅後夫も体調を崩している様子であり自宅の外に出ていないとのことであった。ADLは自立しており食事もとれているとのことであったが、脈拍も徐脈、SpO₂の値も92～93%と低めであった。近隣の病院には通院しており内服もされている様子であった。夫は少し歩くと息切れがすると話しており、緊急性はないが健康状態の悪化が危惧され今後もフォローが必要と考えられた。訪問後ささえ愛センターの担当者に報告し、継続支援を依頼した。

7. 支援活動を通しての所感と課題

【地域コミュニティ支援】

・震災から7カ月となった。正院町第1団地での集会場のお茶会も定着し、今回の支援期間中は小中学生の夏休みも重なり、ナツガクと合同でお茶会が開催された。高齢者が児童と共にお茶会に参加することで活気づけられたように感じた。また、お茶会以外にも火曜日の夜はコミュニティカフェも開催され幅広い年代層が語れる場があることは地域コミュニティの強化に繋がっていると感じた。今週末から正院町第2団地のコミュニティの場が旧正院保育所を活用されるようになる。新たなお茶会の開催など、

地域住民の方が集まれるような取り組みが必要と考えられた。宝立町第1団地においては、集会場を利用する方々が固定されているようにも感じるため、今後幅広い年代層が活用できるような取り組みも必要ではないかと考えられた。

【応急仮設住宅個別訪問による支援】

・今回の支援期間中、体調を崩しお茶会をお休みする方や在宅に引きこもりがちとなっている方がいたため気がかりとなった。夏場は熱中症や感染症などで体調も崩しやすく気がかりな時期であるため健康管理に留意する必要がある。また、応急仮設住宅が次々と出来上がり、避難所から応急仮設住宅、または自宅へと転居することになり、生活の場が変化する時期で心身共に不安定になることが考えられた。気がかりな方がいないか気配りしながら、被災者へのこころのケアもしていく必要があると考えられた。

8.写真



珠洲ささえ愛センターの朝のミーティングの様子



絵本の読み聞かせの様子



子供達との応急手当の様子



三角巾を使った応急手当の様子